

令和7年2月21日

保護者の皆様

枚方市立杉中学校  
校長 畑 克延

### 令和6年度学校教育自己診断の結果・分析のお知らせ

寒冷の候、保護者の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より本校教育にご理解・ご支援を賜りありがとうございます。

さて、昨年11月にご協力いただきました「学校教育自己診断」の結果、およびその分析についてお知らせいたします。

参考:今年度の学校経営目標、および「めざす生徒像」

|                              |
|------------------------------|
| <学校教育目標> 「じりつ・共生・チャレンジ」      |
| <めざす生徒像>                     |
| (1) 自ら学び、考え、行動できる生徒 (自立・自律)  |
| (2) 仲間とともに学び、考え、行動できる生徒 (共生) |
| (3) 勇気をもってチャレンジできる生徒 (チャレンジ) |

1. アンケート回収率 生徒 82.6% (670名/811名)、保護者 52.2% (423名/811名)

#### 2. 結果の概要と分析

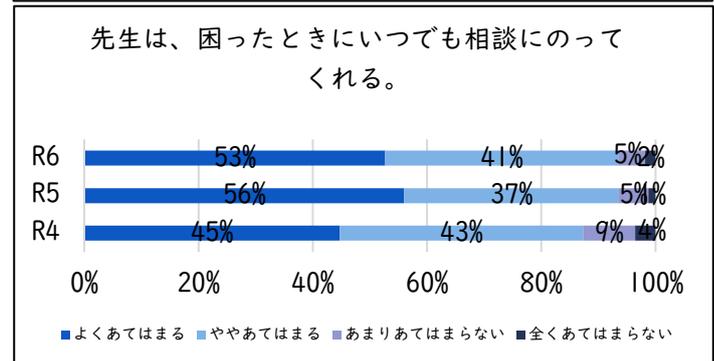
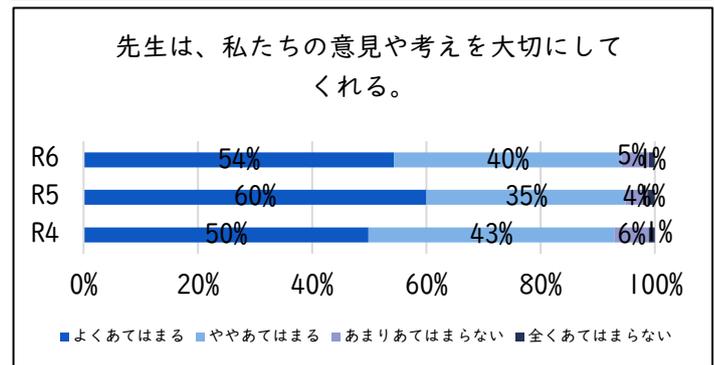
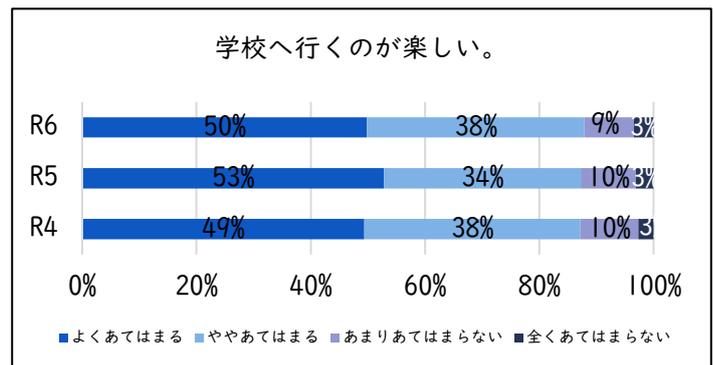
※グラフの数値で、少数点以下の数字を切り捨てるため、合計が100%にならない場合があります。

##### (1) 生徒

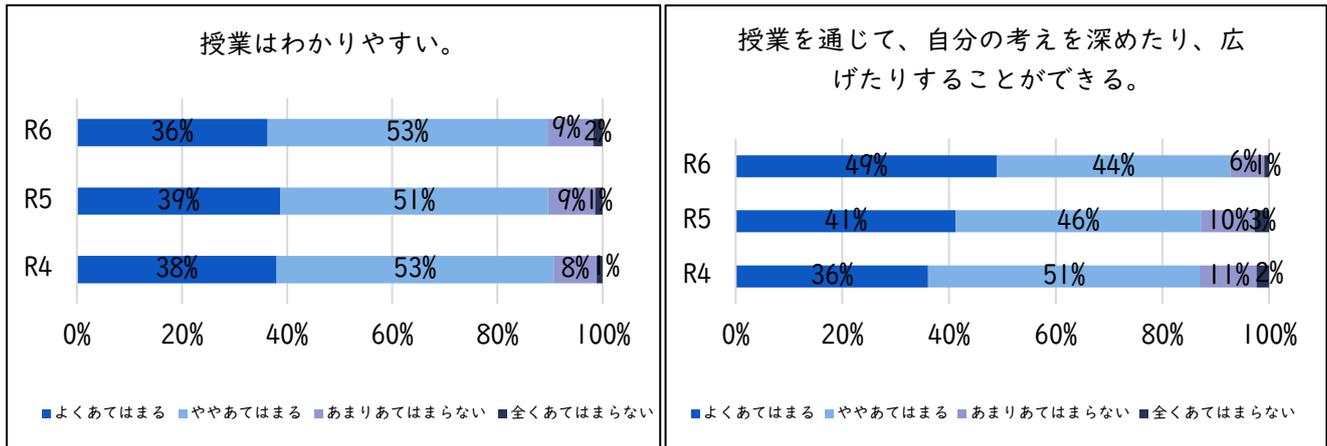
###### ① 学校生活、教職員との関係について

例年、本校で重視している「学校へ行くのが楽しい」の回答結果ですが、ほぼ例年通りでした。今年度も、9割近い生徒が肯定的な回答です。また、「先生は、私たちの意見や考えを大切にしてくれる」「先生は、困ったときにいつでも相談にのってくれる」の質問でも、9割以上の生徒が肯定的に回答しました。しかし「よくあてはまる」とする強い肯定の回答は、昨年度比ではやや減少しました。

一方で、否定的な回答（「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」）の割合や、この度のアンケートに回答していない生徒が一定数いることは看過できません。教員の子もたちへの対応が、年々浸透していると感じられますが、「(だから)学校が楽しい！」と子どもたちが実感し、最初の質問項目の数値も上がるように、これからも日々改善を図っていきます。



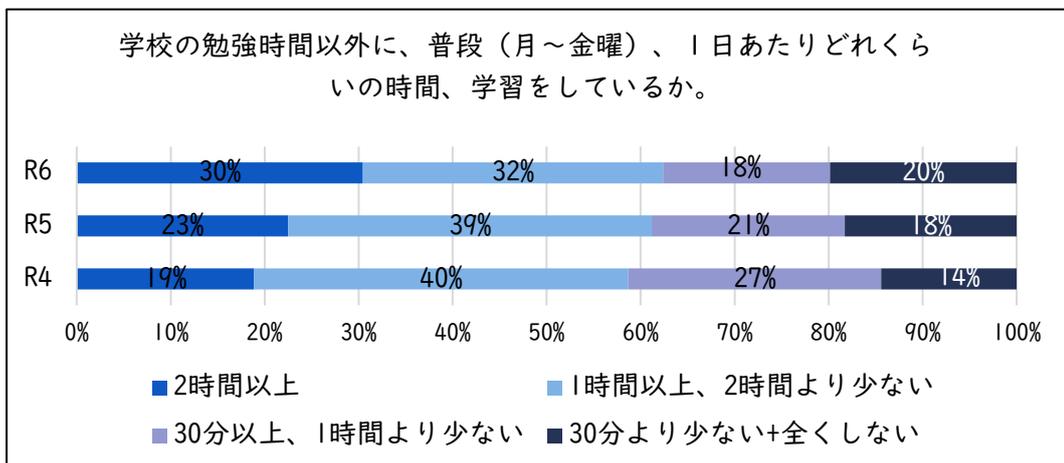
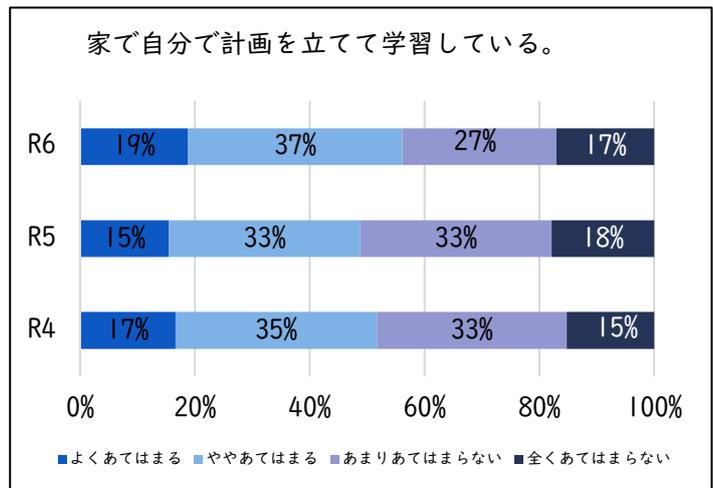
②授業・学習状況について（参考）授業改善にかかる研究テーマ：「自ら計画的に学ぶ生徒の育成」



本校では、「協同学習」を授業に取り入れ、授業改善を図っています。「協同学習」とは、グループワークの形を基本として、教科の学習を通して、学び方や他者とのつながり方を育成する学習スタイルです。「教師に教わる」のではなく「自ら学ぶ」ことを重点としており、学習に対して主体性が育まれることで、学習理解が進むということがねらいです。

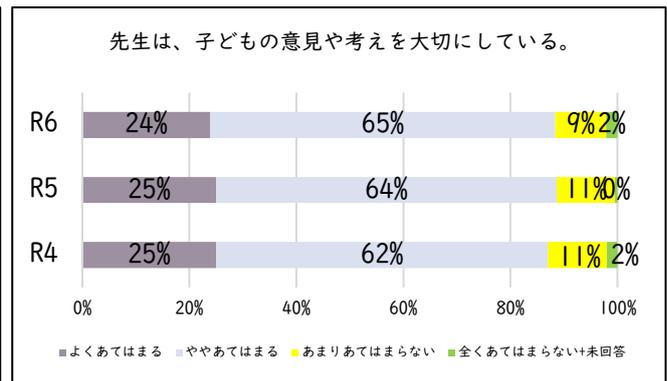
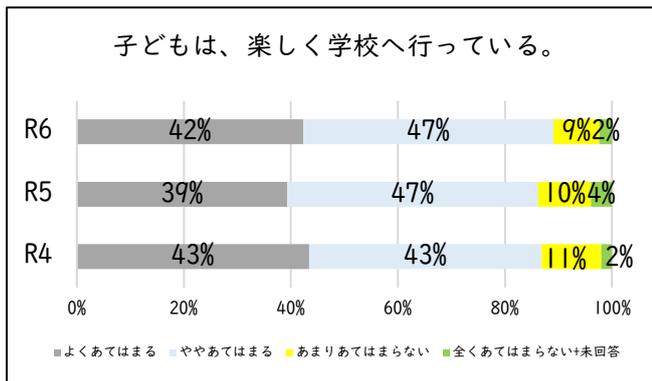
「授業はわかりやすい」「自分の考えを深めたり広げたりすることができる」についてみると、特に後者で向上が見られ本校がめざす授業づくりが、生徒に浸透してきていることがうかがえ励みになります。引き続き、向上に努めます。

家庭学習の状況に関する項目について、「家で、自分で計画を立てて学習している」の質問では、肯定の回答について、やや改善がうかがえます。これについては、普段の授業で見通しを持たせる場面を意識させたり、長期休業中に計画を立てさせたりなどの取組が功を奏したと評価します。一方、「学校の勉強時間以外に、普段、1日あたりどれくらいの時間、学習をしているか」の質問においては、2時間以上学習している割合は増加しましたが、依然2割弱の生徒はほとんど家庭学習をしていない状況です。家庭学習について、5分の1の生徒がほとんどしておらず、約4割強の生徒が計画的に進めていない現状を大きな課題と捉えて、早急に改善を図っていきます。



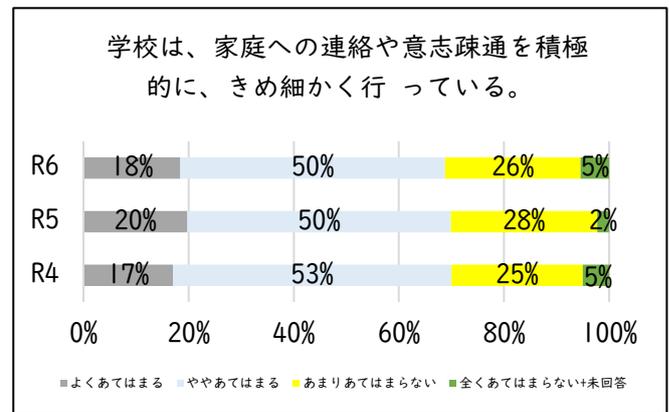
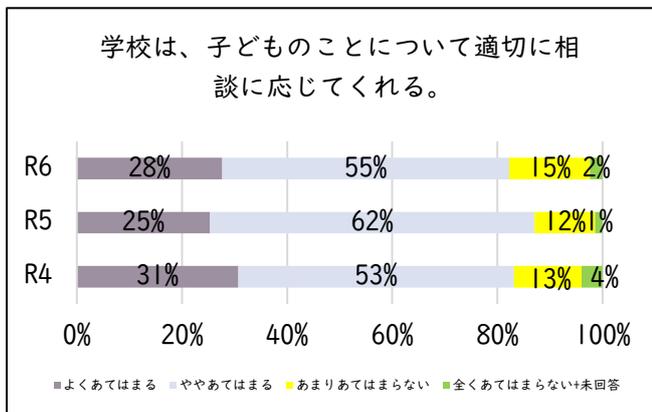
## (2) 保護者

### ①子どもの様子・先生の様子、学校との連携



「子どもは、楽しく学校へ行っている」の回答では子どもたちの回答とほぼ同じ肯定割合でした。「よくあてはまる」の強い肯定割合は、昨年度比+3ポイントです。

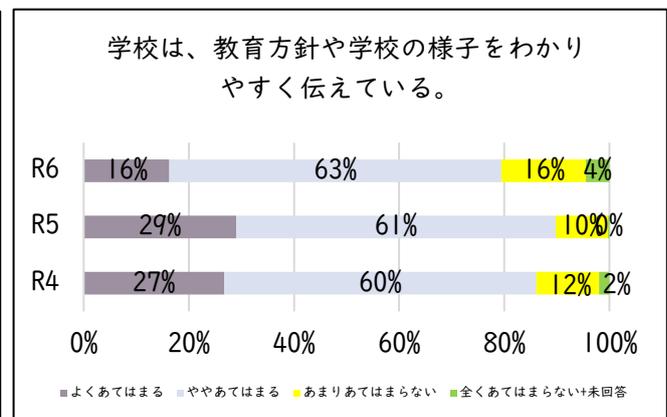
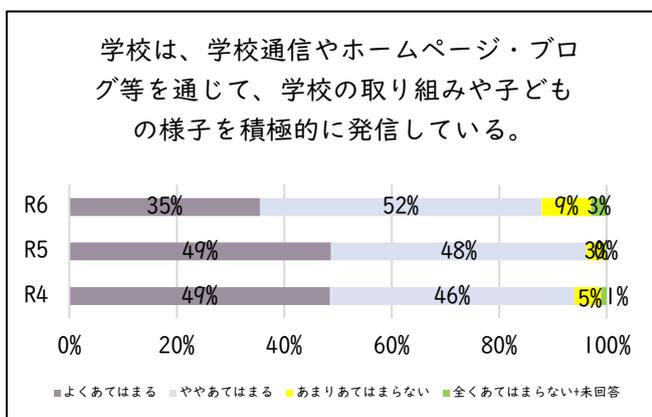
「先生は、子どもの意見や考えを大切にしている」の回答では、肯定回答の割合を維持し、9割に迫ってきています。生徒対象の同項目でも良好な結果と言えるので、引き続き、子ども主体の学校づくりとその指導を継続していきます。



保護者からの相談受付状況について、全体的には横ばいかやや減少傾向が見られます。一方、学校からの連絡状況は、保護者からの相談状況と比較すると肯定値に開きがあります。学校からは、適宜連絡を差し上げていますが、それが「積極的」「きめ細かく」となると改善の余地は多分にあるものと考えます。

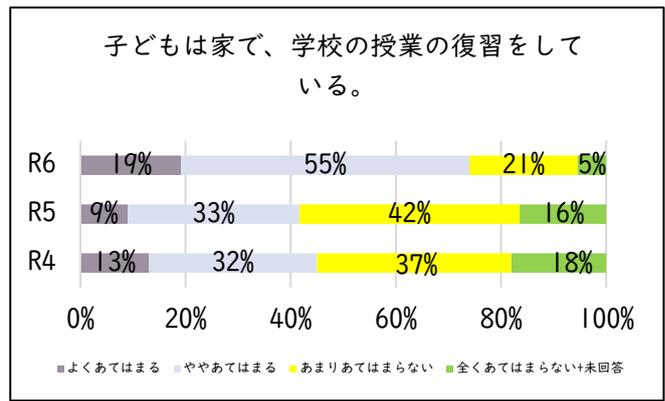
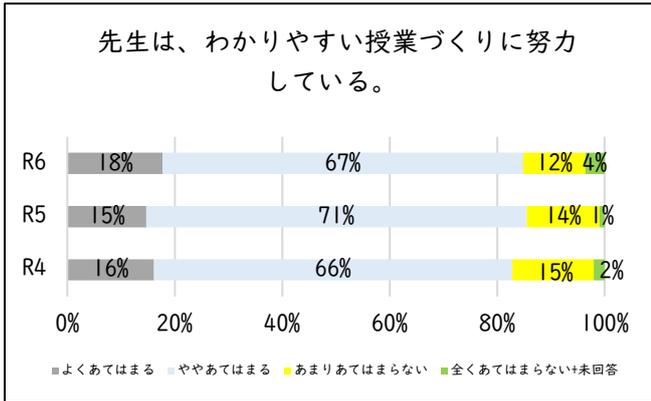
近年、学校の勤務時間の適正化や保護者の方の就労状況等、連絡体制の構築が難しくなっていますが、子どもの最善の利益のためには学校と各ご家庭の協力は必須です。学校も改善に努めますので、ご理解・ご協力をお願いします。

### ②情報発信について



昨年度以上に情報発信には尽力したつもりでしたが、おおきく肯定値が減少しました。固定的で、広く情報が行き届いていないことが想像されます。発信方法に工夫を凝らします。

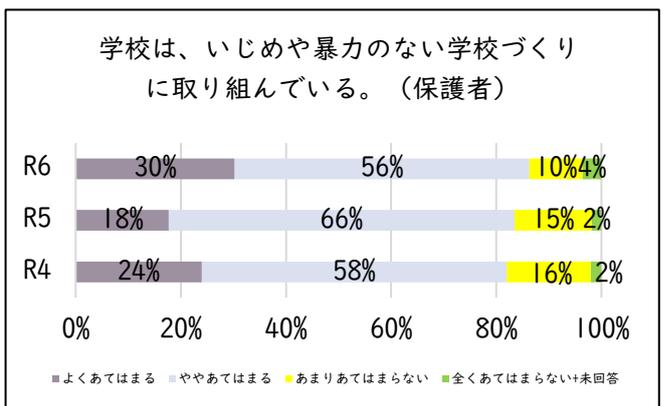
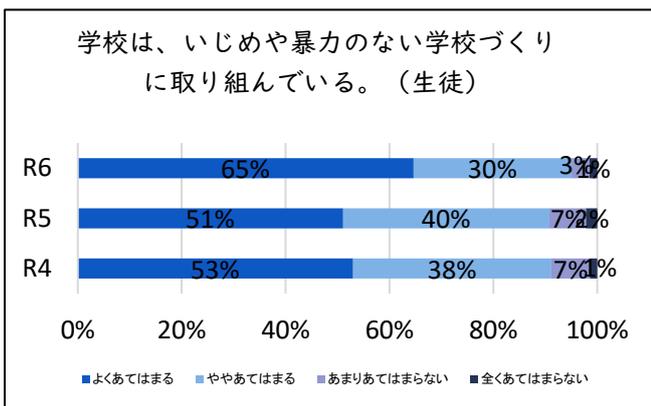
### ③授業・家庭学習



経年では、肯定的評価は横ばいです。生徒は授業が分かりやすいと約9割が回答していることから、その実感を保護者の方にも評価いただいているものと分析します。生徒が「わかった」「できた」が、家庭で保護者と共有されることで、生徒の評価に近づいていくものと考えます。

一方、家庭学習については、生徒側とも例年課題となっていました。保護者の回答においては、顕著に改善が見られた項目の一つです。学校では、自学自習・家庭学習の充実を重点課題におき、懇談でも課題を共有する場面を設けたことも奏功したと評価します。引き続き、授業と家庭での学習を往還するような課題設定や、自分で計画を立てて取り組む主体的な学習内容を提示していくことを進めます。

### (3) 同項二者比較 <「いじめ・暴力防止・の取組について」>



この度の調査で生徒・保護者とも顕著に改善した項目として「いじめ・暴力防止の取組」に関するものがあげられます。生徒は肯定値全体では+4ポイントながら、強い肯定（よくあてはまる）が昨年度を14ポイントも上回りました。また、保護者も、強い肯定の値については昨年度を12ポイント上回る結果となりました。この要因としては、生徒に対しては「いじめ防止ポスター」やいじめ防止をねらいとする学級活動やソーシャルスキルトレーニングなどの「見える取組」が挙げられます。また、こういった取組を情報発信することで、学校の取組をご評価いただけたものと推察します。

いじめや暴力のない学校は、ひろく「安全・安心な学校」であり、生徒たちの居場所があるということに他なりません。お互いの違いを認め合い、日々おこる様々な人間関係のもつれやトラブルにも、主体的に解決に臨める環境と生徒の育成を、保護者の方と連携して行っていきたいと考えています。

### 3. おわりに

生徒・保護者の調査より明らかになった教育活動の課題について真摯に受け止め、成果を得られた項目については継続して充実させることを、課題のある項目については研究や改善をすすめ、よりよい教育活動をめざします。この調査にご協力いただいた保護者の皆様、生徒の皆さんご協力ありがとうございました。今後ともご協力をお願いいたします。